

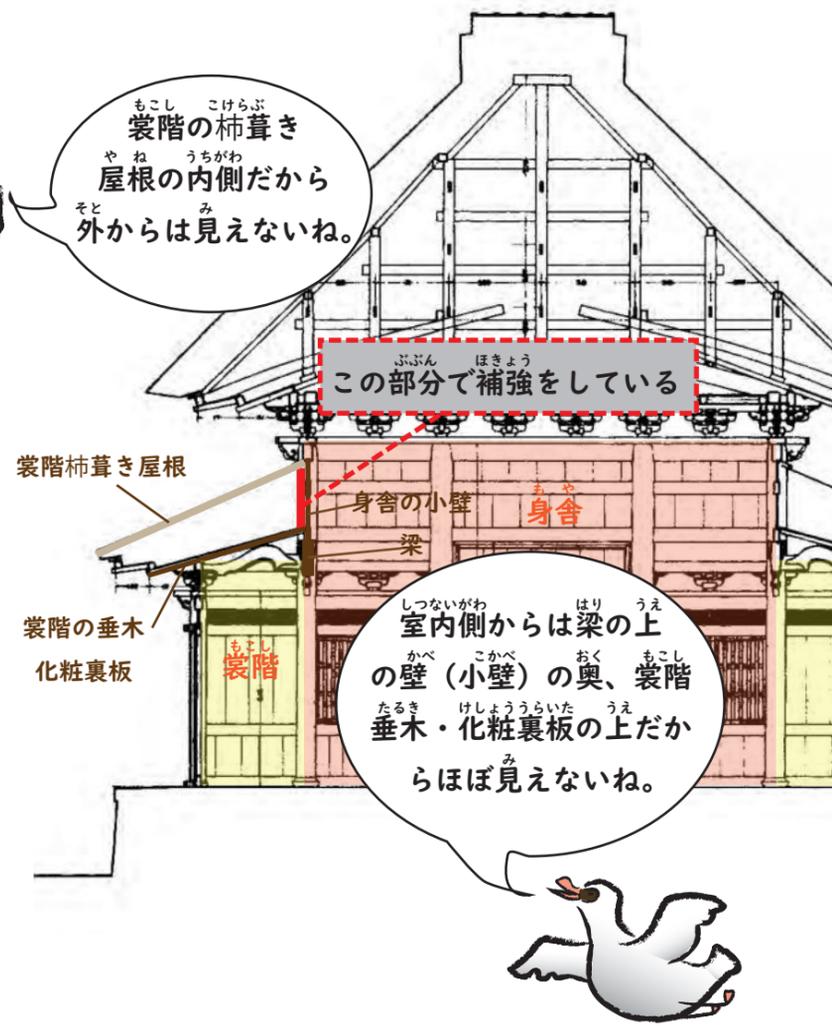
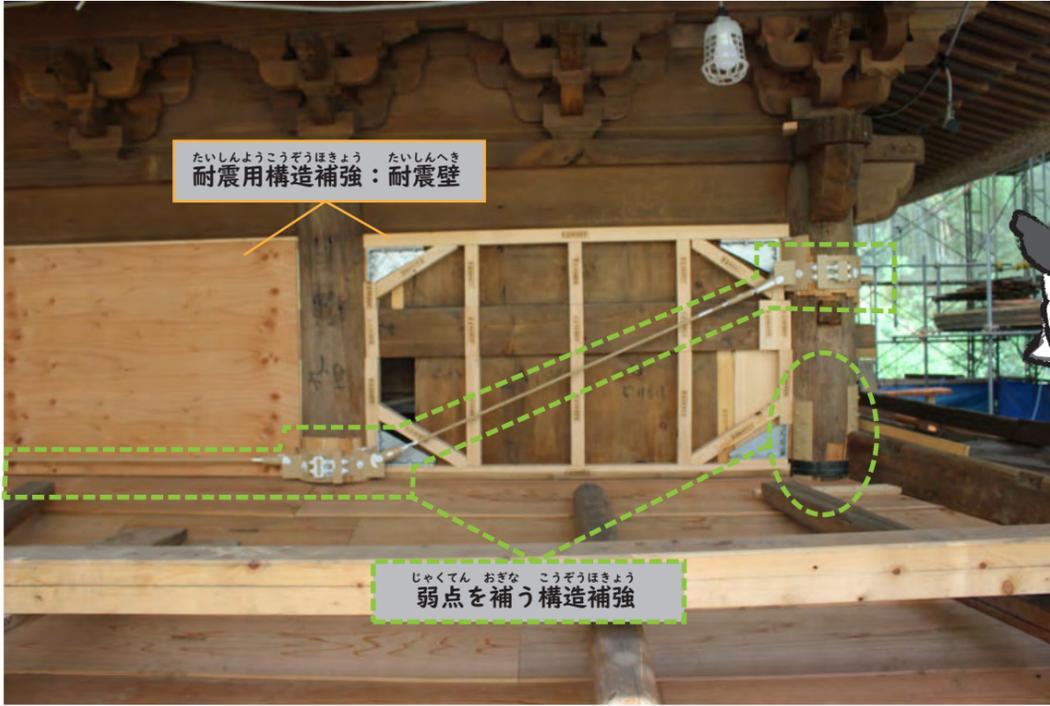
今はこんな様子だよ。



工事の げんば 現場より

8月1週目

きゆうとうけいじ ぶつでん くたい たてもの ほねぐ
 旧東慶寺仏殿の躯体（建物の骨組み）では今回工事で耐震補強・構造補強が行われていますが、
 たてもの ないぶ がいぶ み いち こけらぶ やね うちがわ せっち
 それは建物の内部からも外側からも見えない位置である柿葺き屋根の内側に設置されました。
 ほきょう こうじ す つぎ こけらぶ やね せこう やね したじ ぶぶん だいく く た
 補強工事が済んだので次は柿葺き屋根を施工します。まずは屋根の下地部分を大工が組み立てて
 うえ ふ こけらぶ やね さぎょう ふきし さまざま さぎょう えんかつ すす か
 いき、その上に葺く柿葺き屋根の作業は葺師にバトンタッチ。様々な作業を円滑に進めるため代わ
 が しょくにん てい さぎょう すす けんちく こうじ だんど かんじん
 る代わる職人が出入りし作業を進めていきます。建築工事は段取りも肝心です。



こけらぶ やね したじ やね ほねぐ
 柿葺き屋根の下地となる屋根の骨組
 だいく つく あ あたり
 みを大工が作り上げていきます。新し
 もう たいしんほきょう こうぞうほきょうざい
 く設けられた耐震補強・構造補強材と
 かんしょう せつけい かく
 干渉しないように、また設計どおり隠
 せるように組み上げています。
 この部分は柿葺き屋根が葺かれたら
 み あたり ざいりょう こしよく
 見えなくなるため、新しい材料に古色
 ふる ざいりょう なじ ふる
 (古い材料と馴染むように古びたよう
 いろ ん おこな
 に色を塗ること)は行っていません。